

# 地域活動団体と企業の連携

鳥川保存会(鳥川町)へのフタバ産業(株)の地域支援活動  
結果の検証と課題の分析

岡崎市市民生活部額田支所

# 額田地域の概要

- 岡崎市の東部に位置
- 地域の約85%を森林が占める
- 小学校は5校、中学校は1校
- 旧小学校区単位でコミュニティーを形成
- コミュニティごとに地域おこし活動を展開

(例) くらがり溪谷の紅葉やサウンドフェス(宮崎学区)

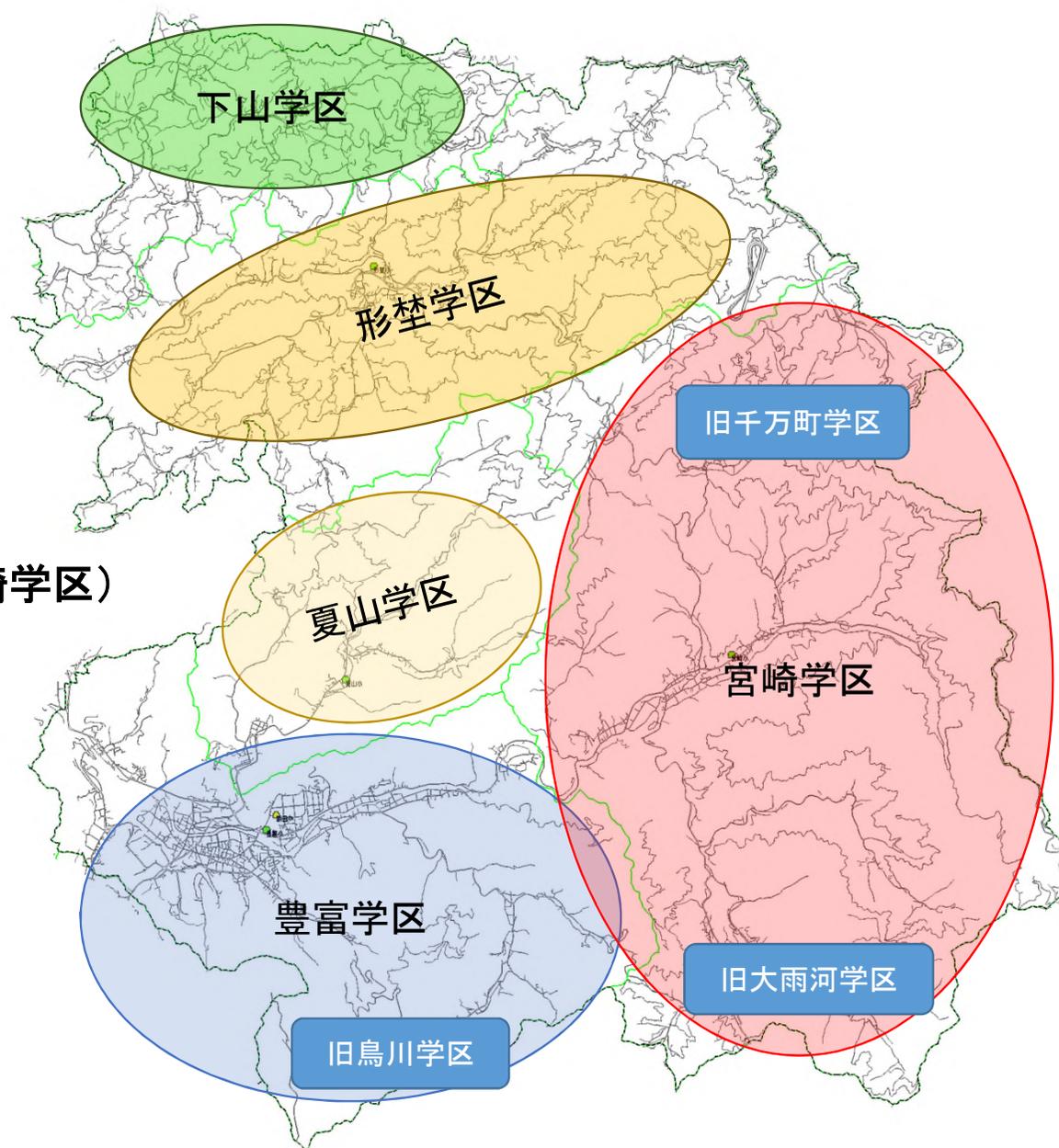
ホタル祭り(旧鳥川学区)

道の駅風マルシェ(豊富・夏山学区)

ウォーキングイベント(下山学区)

鯉のぼりあげ(形埜学区)

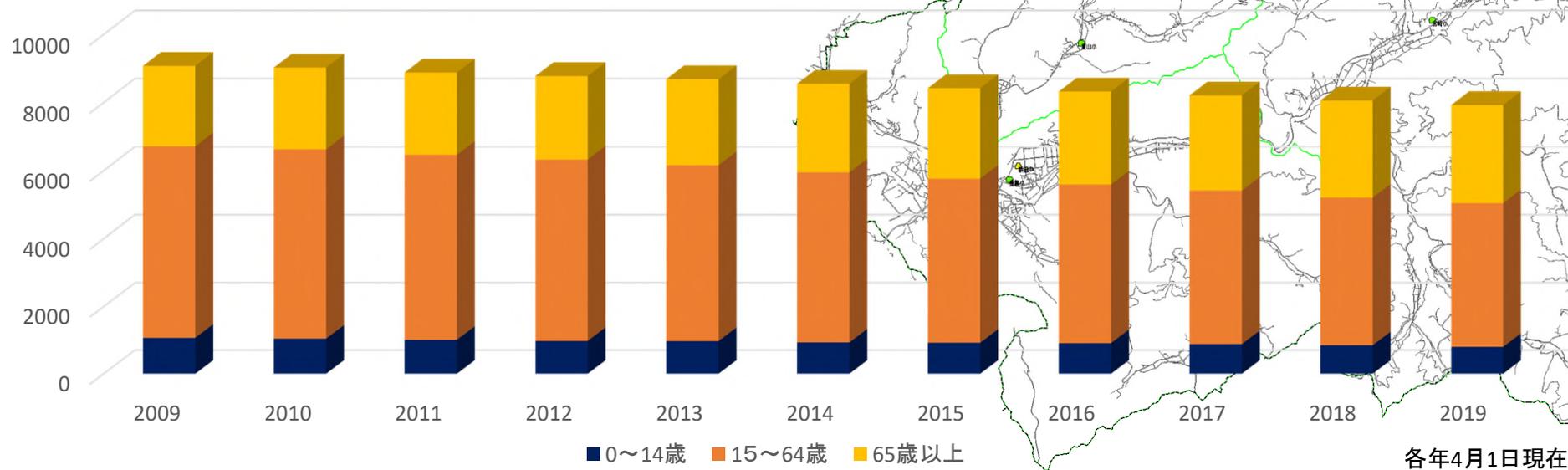
山里アート(旧千万町学区)



# 額田地域の現状

- 人口は年々減少(2009年⇒2019年で-1,152人)  
※ 2009年⇒2019年で-1,152人(年少人口-271人、生産年齢人口-1,397人、老年人口+516人)
- 高齢化率は増加の一途  
※2009年⇒2019年で10%増加(2009年26.1% 2019年36.4%)
- 主要産業であった林業の衰退

額田地域の人口推移



各年4月1日現在

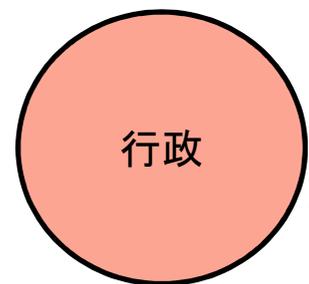
# 鳥川町(旧鳥川学区)について

- 平成31年4月1日現在で、人口は148人、高齢化率は41.2%
- 平成6年に自然環境の保護と意識の高揚を目的として「鳥川ホタル保存会」を結成
- 現在、旧鳥川学区内の全住民がホタル保存会の会員となっている
- 平成22年3月に旧鳥川小学校が閉校
- 閉校した学校を活用し、平成24年4月ホタル学校をオープン
- 鳥川ホタルの里湧水群は平成の名水百選に選ばれている
- 毎年、鳥川ホタル祭りを開催し、多くの人を訪れている
- ホタルの保存を始め、自然環境の保護のための様々な活動を展開

2019年 鳥川町	
年少	13人
生産	74人
老年	61人
高齢化率	41.2%

・年少人口(15歳未満) ・生産人口(15歳以上65歳未満) ・老年人(65歳以上)

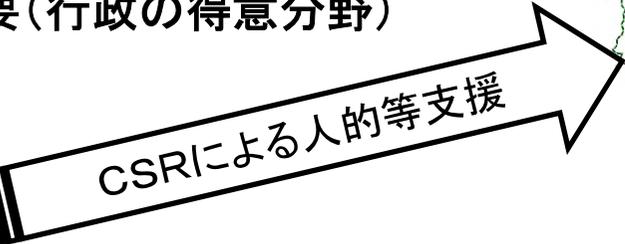
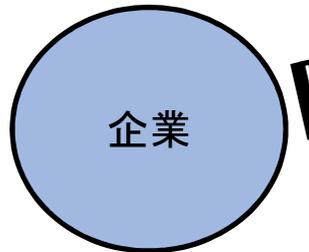
# 地域の抱える課題



社会貢献活動に関心を持つ企業  
地域コミュニティ活動等への支援を望む集落  
双方が直接つながることは難しい

↓

企業と地域コミュニティを繋げる機能  
が必要(行政の得意分野)



## 【集落側の心配ごと】

人口の減少と高齢化の更なる加速



地域コミュニティ活動(維持活動や地域おこし活動)の低下



地域の維持ができなくなり、地域コミュニティが消滅していくのでは？



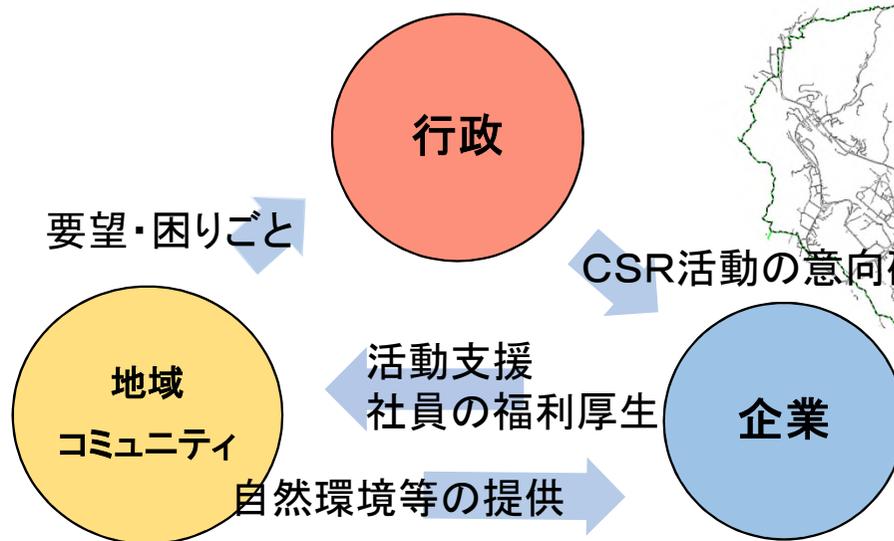
今は無い、今後必要となる  
地域支援の形

# CSRとは

- CSR(企業の社会的責任)

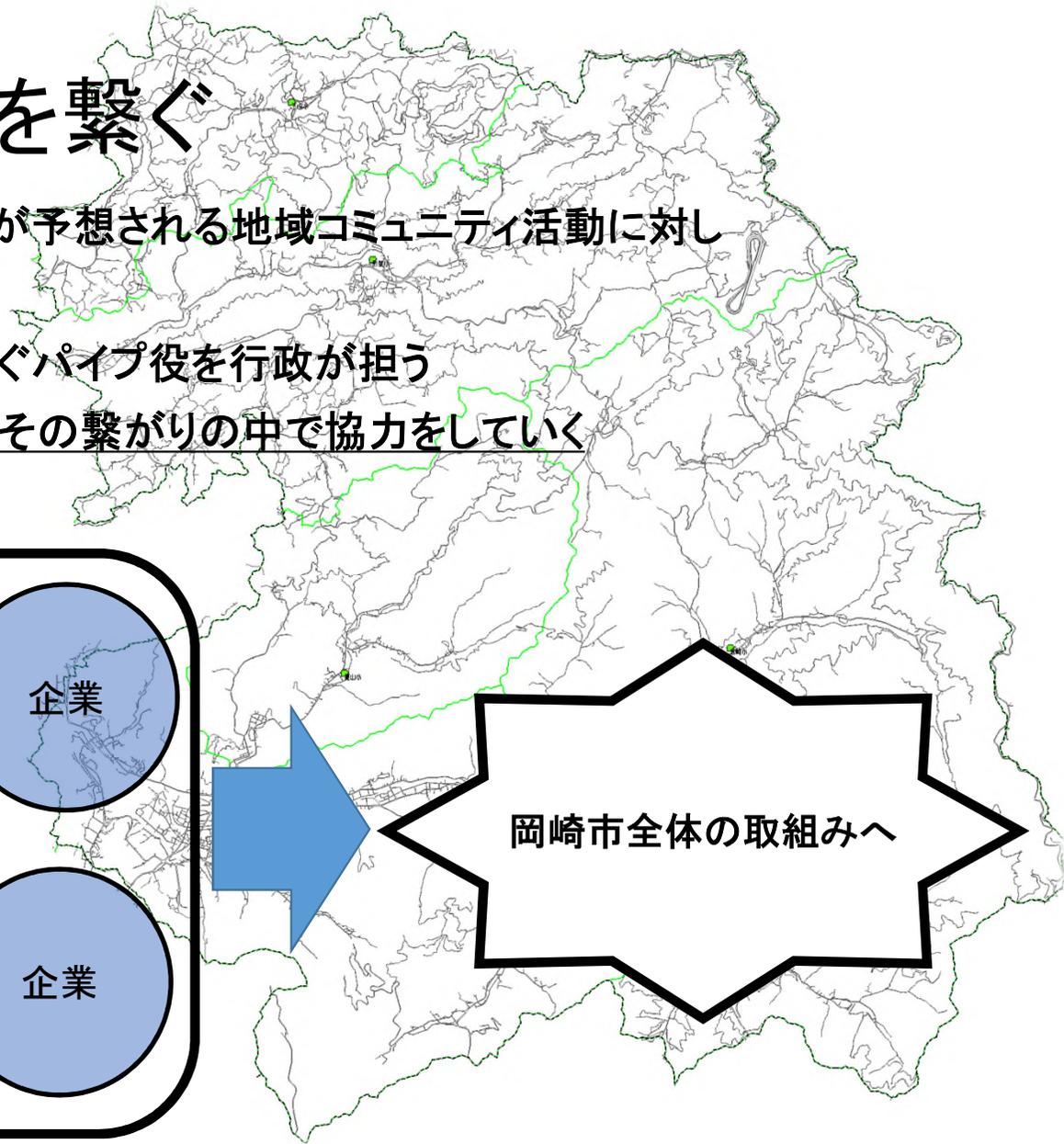
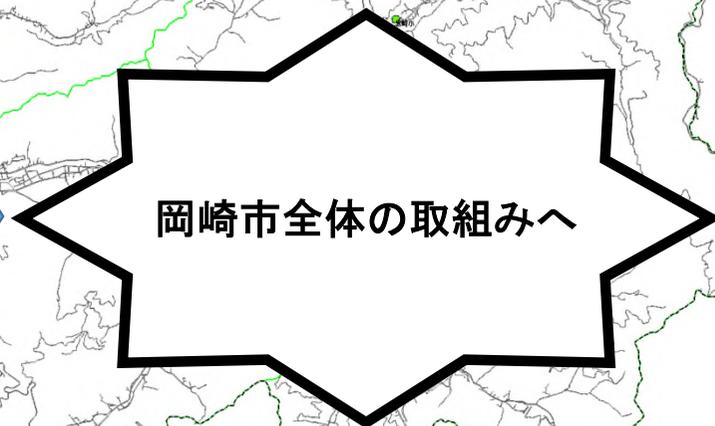
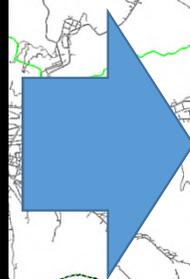
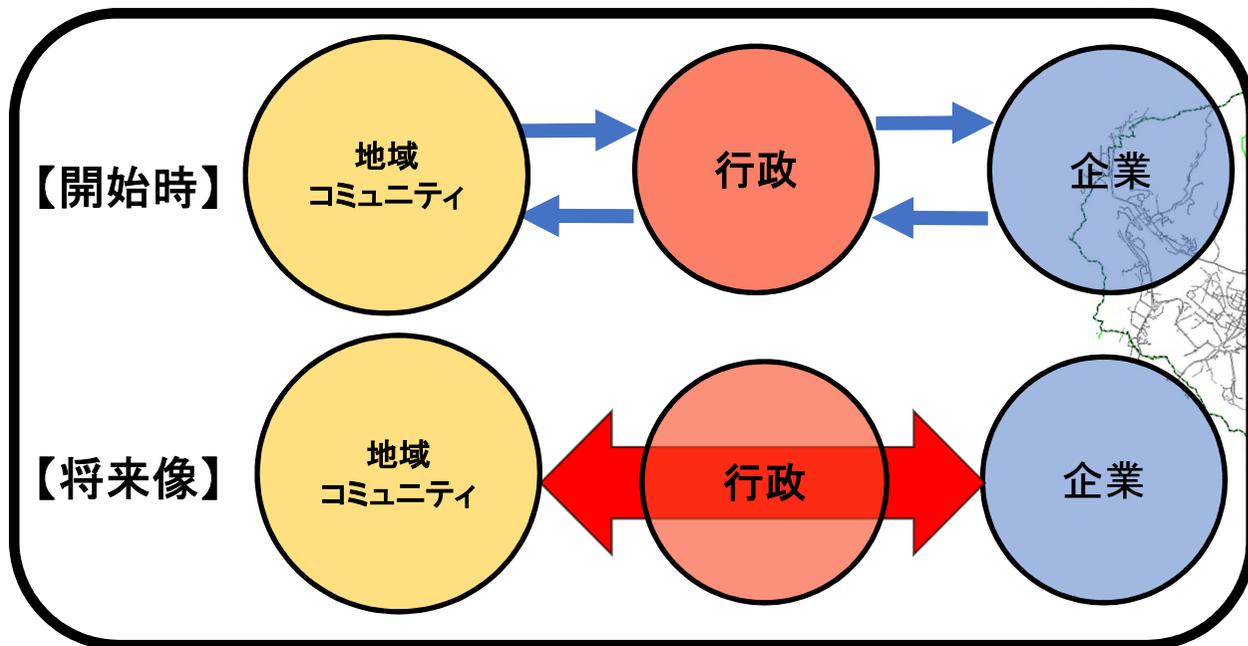
⇒企業が倫理的観点から事業活動を通じ、自主的に社会に貢献する

- 試験導入の流れ



# 地域コミュニティと企業を繋ぐ

- 人口減少及び高齢化により今後疲弊することが予想される地域コミュニティ活動に対しCSR活動を望む民間活力を導入
- 開始時には地域コミュニティと企業を繋ぐパイプ役を行政が担う
- 将来的には地域と企業が直接繋がり、行政がその繋がりの中で協力をしていく



# 協力企業及び集落との調整

- 鳥川集落代表者と要望内容のまとめ

平成31年度鳥川町内活動計画（案）

鳥川六ヶ所保存会

【草刈り】

月	日	作業内容	人数
5月	日	川の草刈 会員全員にて	55名
5月	日	町内外の泉源治いの草刈	20名
7月	日	川の草刈 会員全員にて	55名
11月	日	川の草刈 会員全員にて	55名
11月	日	町内外の泉源治いの草刈	20名

【清掃活動】

月	日	作業内容	人数
5月	日	名水周辺遊歩道周辺の落ち葉等も 随時実施する	10名
5月	日	町内道路のクリーン作戦	全員
7月	日	川の中・土岸等のごみ拾い	10名
11月	日	町内道路のクリーン作戦	全員
11月	日	ホタル幼虫生育水槽の清掃	15名

【取組調整備】

月	日	作業内容	人数
9月	日	嵐山・養正道の整備（落ち葉・小枝・樹木除去）	25名
10月	日	" " " " " "	25名
各月にて		養正道護国案内看板作り改善・整備作業	10名

【ホタルまつり】

月	日	作業内容	人数
6月	1日	まつりオープニングイベントの交通整理等	5名
6月	2・8・9・15・16日		10名

【その他】

- ホタルまつり時刻表配布する交通誘導案内図の印刷 500部
- 大きな看板図 (30cm×40cm) 10部

- 平成30年11月頃から企業(5社)に対し本事業に対する協力の是非についてヒアリングを開始

## 【企業から頂いた主な意見】

- 行政からの要望であれば協力していきたい。
- 会社にとってのメリットが生まれる内容であれば協力したい
- 自社に関わりのある地域での活動であれば協力できる
- 休日を使った活動は難しい
- 自社製品に関連するような活動であれば協力できる

# フタバ産業(株)の鳥川保存会への支援理由

- 自動車部品メーカーとして、ホタル保存会のホタルを通じての自然環境保全活動の主旨に賛同し支援を決定。



# 支援内容・活動①(打ち合わせ会)



## ■平成30年12月14日(金):第1回打ち合わせ

3者の顔合わせ。市より地域支援事業の概要を説明。ホテル保存会の設立から現在のまでの活動状況の説明。

## ■平成30年12月27日:第2回打ち合わせ

ホテル保存会から、ホテル祭り期間中の交通整理などの人員協力及び、案内看板、案内チラシの支援をフタバ産業に要望。

## ■平成31年1月18日:第3回打ち合わせ

看板と案内図の仕様案、支援スタッフの作業内容と必要な人数の協議

## ■令和元年5月10日:第4回打ち合わせ

ホテル祭り期間中の人員協力の詳細打ち合わせ。看板、チラシの物品の納品等の打ち合わせ。

## ■令和元年7月26日:第5回打ち合わせ

ホテル祭り期間中に実施した支援活動について課題及び今後の支援について打ち合わせ。

# 支援内容・活動②(物的支援)



案内看板



案内チラシ

## 支援内容・活動③(人的支援)



ホタル祭り期間中の交通整理 案内 誘導

令和元年6月1日(土) 5名

令和元年6月2日(日) 雨天中止

令和元年6月8日(土) 7名

令和元年6月9日(日) 10名

令和元年6月15日(土) 雨天中止

令和元年6月16日(日) 7名

合計29名

交通整理や来訪者へのホタルの飛翔状況の説明、飛翔ポイントの案内などを行いました。

# 支援結果の検証

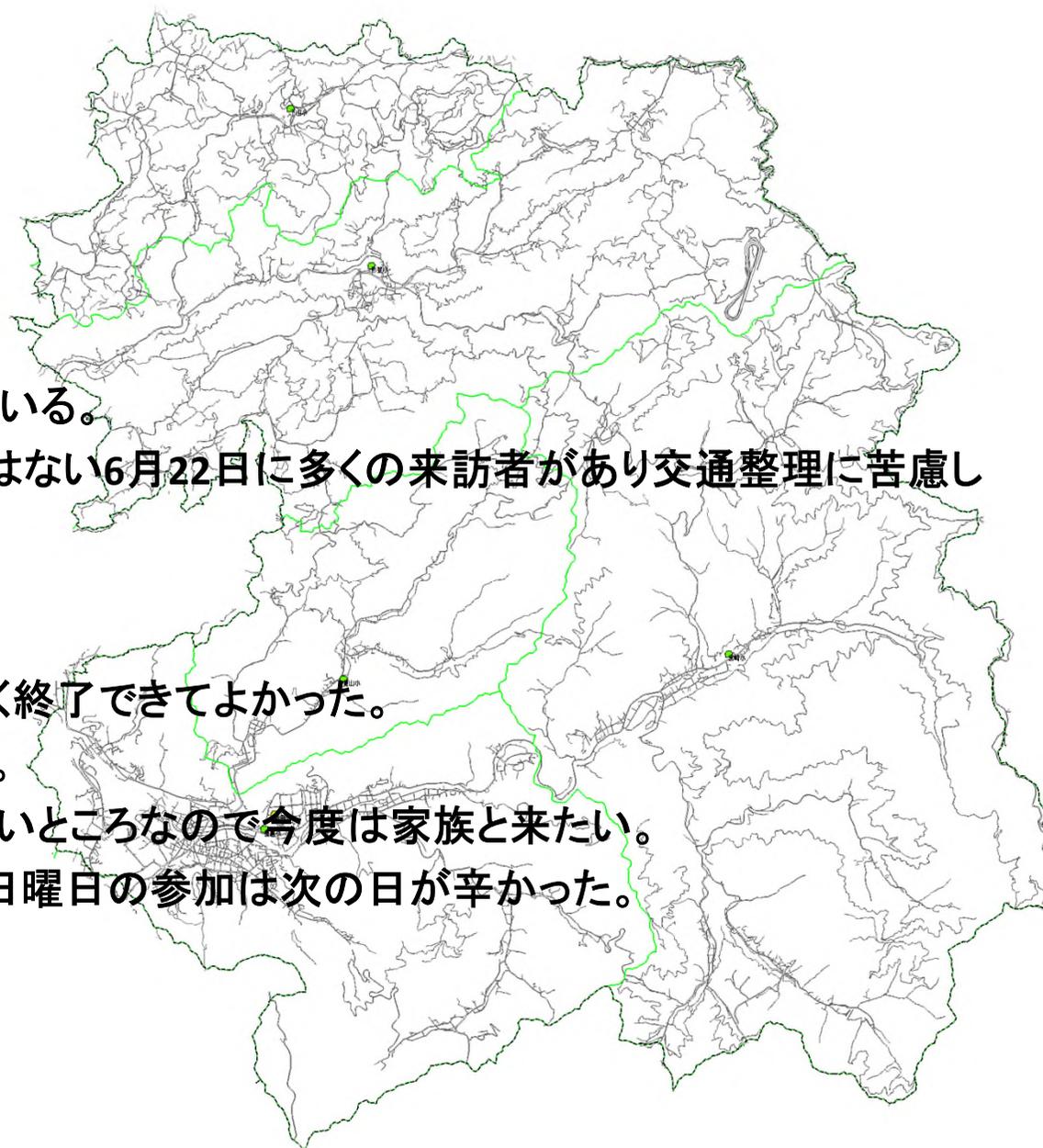
## 活動に対する地元の声

- ・案内看板がとても分かりやすく効果があった。
- ・地元住民は今回の支援をととてもありがたく思っている。
- ・今年はホタルの飛翔ピークが遅く支援活動日ではない6月22日に多くの来訪者があり交通整理に苦慮したので、来年は支援日を増やしてほしい。

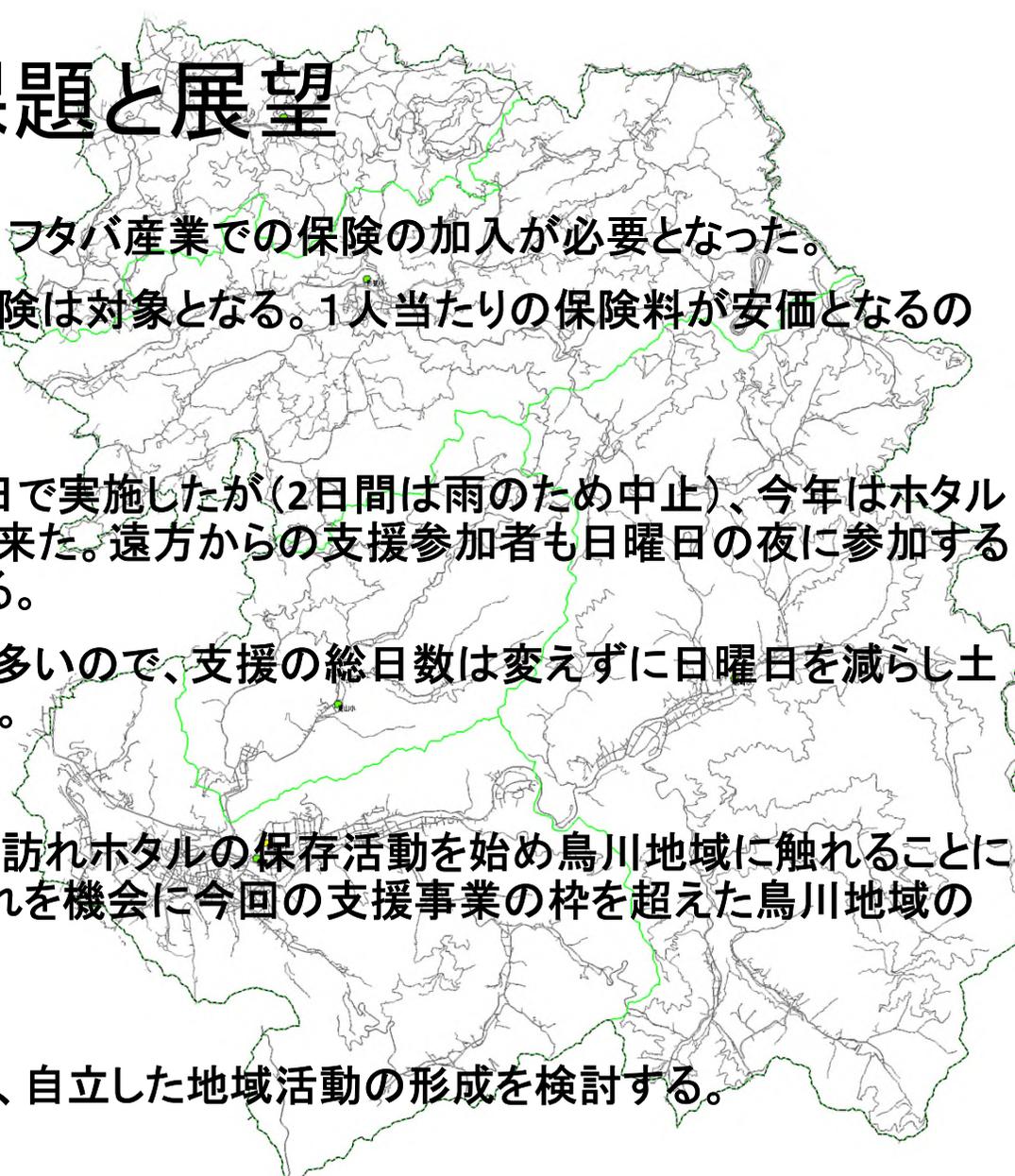
## フタバ産業の声

- ・夜間の支援活動ともあり心配したが、トラブル無く終了できてよかった。
- ・地域の方からもてなしをいただきありがたかった。
- ・ホタルが飛ぶのを始めて見て感動した。とても良いところなので今度は家族と来たい。
- ・名古屋や田原などの遠方からの参加者もあり、日曜日の参加は次の日が辛かった。

鳥川保存会、フタバ産業との双方に成果があった



# 今回の事例についての課題と展望



- 市民活動総合補償保険制度が非該当となるので、フタバ産業での保険の加入が必要となった。  
⇒愛知県社会福祉協議会のボランティア行事用保険は対象となる。1人当たりの保険料が安価となるので来年度以降はこの保険に加入する。
- 人員支援は6月のホタル祭り期間中の土日、計4日で実施したが(2日間は雨のため中止)、今年はホタルの飛翔のピークが遅く22日(土)に多くの来訪者が来た。遠方からの支援参加者も日曜日の夜に参加すると深夜の帰宅となるため、次の日の仕事が辛くなる。  
⇒来訪者は土曜と日曜を比べると土曜日の方が多いので、支援の総日数は変えずに日曜日を減らし土曜日を増やすことにより、両者が無理なく活動できる。
- フタバ産業の参加者の中には、初めて鳥川地区を訪れホタルの保存活動を始め鳥川地域に触れることにより、今度は家族と訪れたいという声があった。これを機会に今回の支援事業の枠を超えた鳥川地域の活性化に期待したい。
- 鳥川保存会としてフタバ産業からの支援期間中に、自立した地域活動の形成を検討する。

# 地域コミュニティ、企業、市との連携全般についての課題と展望

- 市内の中山間地域には、企業の支援を求める地域コミュニティがあるが情報を発信できていない。
- ⇒市ホームページに支援を求める地域コミュニティの情報を掲載し、地域貢献に関心のある企業とを結びつけるサポートをしていく。

